

Ⅲ キャリア教育に関する文献や資料

ここでは、本冊子作成のために、引用または参考にした文献や資料について、コメントを付記して紹介します。

栃木県では、今後の教育施策の方向性を示す「とちぎ教育振興ビジョン（二期計画）」を策定しました。本章では、キャリア教育の推進にかかる県の施策の概要を紹介します。

1 「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」より 文部科学省（平成16年1月）

文部科学省が、初等中等教育における「キャリア教育」を推進していくための基本的な方向などについて検討して、学校や教育関係者などにおける「キャリア教育」推進の指針となる提言をまとめたものです。

- （本文）http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/023/toushin/04012801/002.htm
- （骨子）http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/023/toushin/04012801.htm
- （リーフレット）http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/04111901.htm

2 中学校職場体験ガイド

文部科学省（平成17年11月）

文部科学省では、平成17年度から、中学生を中心にした5日間以上の職場体験とその支援体制を整備するための「キャリア・スタート・ウィーク」を、全国138地域で実施しています。それにもなつて、中学校でのキャリア教育の中核である職場体験を通じた学習活動の、一層の推進を図るために参考資料として取りまとめたものです。

- http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/05010502/026.htm

〈参照〉文部科学省>進路指導・キャリア教育 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/index.htm

3 『キャリア教育入門 その理論と実践のために』

三村隆男：著 出版社：実業之日本社（平成16年9月）

キャリア教育の歴史、理論的背景そして進路指導とのかかわり、さらには学校現場でのキャリア教育の立ち上げ方から具体的な実践事例、授業展開例などを掲載しています。

4 『図解 はじめる小学校キャリア教育』

三村隆男：編 出版社：実業之日本社（平成16年11月）

小学校段階のキャリア教育を実践するための手引きです。各校で教科、道徳、特活、生活科・総合などを通して地道に取り組まれている実践をもとに、子どもたちの能力や態度を少しずつ引き出し、生きる姿勢を育む考え方が具体的に紹介されています。

5 高校生のインターンシップ

栃木県教育委員会・栃木就職支援センター

栃木県では、関係団体と連携し、専門高校ではすべての生徒が、総合学科や普通科でもできるだけ多くの生徒がインターンシップを体験できることを目指して、インターンシップに取り組んでいます。この資料は、受入れ企業の理解や協力を得るため、地域や産業界、関係者向けに作成した普及啓発用のリーフレットです。

- <http://www.tochigi-work2.net/shisaku/kigyo/intern/index.html>

6 職業情報・就職支援ツール 職業ガイダンス支援サイト 職業データベース

独立行政法人 労働政策・研修機構

高校生から一般向けまで、様々な雇用や職業に関する情報が紹介されています。

〈参照〉労働政策研究・研修機構 <http://www.jil.go.jp/index.htm>

第2部 各論

第1章 自立する力と豊かな心をはぐくむ学校教育の実現

■ 自立意欲と社会性の育成

若者の就労形態をみると、フリーターやニートの増加、高水準で推移する早期離職率等の問題があり、適切な対応が喫緊の課題となっています。その原因としては、求人の減少や求職と求人の不適合の拡大、雇用環境の変化などがある一方、若者の職業に対する意識や価値観の多様化、勤労観、職業観の未成熟、進路決定を先送りする傾向などや、人間関係を築く力などの社会性が育っていないことも、原因として指摘されています。

このようなことから、学校教育においては、児童生徒一人一人に、発達段階に応じた望ましい勤労観、職業観を育てるキャリア教育の推進が求められています。さらに、キャリア教育の視点から主体的に進路を選択決定する能力や態度を育成する進路指導の充実も必要です。

また、社会性の育成を図るため、社会体験活動や自然体験活動などの様々な体験活動や、学級及び異年齢の集団活動を通して、友達や様々な立場の人々と積極的にかかわる体験を充実させます。特に特別活動では、目標に「集団の一員としての自覚を深め」「協力してよりよい生活を築こうとする」とあるように、社会性の育成をねらいとしています。考え方や性格、体力や能力が異なる子どもたちが折り合いをつけながら共に生活する、「学校ならではの学びの体験」を重視していきます。

(1) キャリア教育の充実

社会人・職業人として自立に必要な意欲や態度、能力を育成します

児童生徒の発達段階に応じ、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間において、勤労意欲の醸成や、社会人・職業人として自立していくために必要な能力や態度を育成します。

さらに、学んだ知識をより確かなものとするために、職業に関して専門的知識や技能をもつ民間人等を活用した授業、奉仕活動や職場体験などの実体験の機会を拡充します。

また、各学校が組織的・系統的にキャリア教育を推進できるようにするため、小・中・高校の発達段階に応じた一貫性のある学習プログラムを開発し、普及していきます。

[推進の柱となる事業]

- ・ 地域の人材活用の推進
- ・ 職場体験の推進
- ・ ジュニア・キャリアアドバイザー事業
- ・ 勤労観・職業観を育成する学習プログラムの開発・普及

(2) 進路指導の充実

自分の意志と責任で、進路を選択・決定する能力や態度を身に付けさせます

各教科における学習指導や総合的な学習の時間、特別活動などの教育活動全体を通じて、生徒が自らの在り方生き方を考え、主体的に進路を選択し、その目標に向かって努力していけるよう、各学校においては、本人や保護者に対するガイダンス機能の充実を図るとともに、職場体験の機会の確保や企業訪問、上級学校訪問などを実施し、生徒の進路意識を啓発します。

また、教職員全体の共通理解と協力体制により、計画的・組織的に進路指導を行うだけでなく、中・高の連携を密にし、連続性・一貫性のある進路指導の充実を目指します。

[推進の柱となる事業]

- ・中・高進路指導連絡協議会
- ・県立高校ガイダンス事業
- ・進路指導連絡協議会

(3) 社会性を育てる指導の充実

社会生活を営む上での基礎を身に付けさせます

社会性は集団生活の中で育てられます。したがって、集団活動の場で自分の役割や責任を果たす、互いのよさを認め合う、他者と協力して集団に関わる諸問題を話し合う、集団のためになる最良の解決策について思考判断するといった活動を重視します。特に、学級活動（ホームルーム活動）などにおける集団決定の場面や、学校行事や生徒会活動などにおける、集団（同学年・異学年）内での役割や責任を果たす場面の指導を大切にし、一人一人が集団に所属することのよさを実感できるようにします。

また、社会体験活動や自然体験活動などの様々な体験活動の一層の充実を図り、あいさつや礼儀作法など社会の一員としての基本となることや共に生きる心、感謝の心などを育むとともに、主体的に自己の在り方や生き方を見つめさせます。

さらに、学校教育の様々な機会を通して、お互いの考えや気持ちを伝え合う力を高め、生活上における問題を言葉で解決する力を育てるとともに、児童生徒が相互理解や望ましい人間関係づくりを進めるためのカリキュラム等の在り方について調査研究を行い、その研究の成果を県内全域に普及・啓発します。

[推進の柱となる事業]

- ・伝え合う力を養う調査研究
- ・キャリア教育実践プロジェクト事業（キャリア・スタート・ウィーク）

キャリア教育の視点を生かした
進路指導の工夫・改善に関する参考資料
－ 生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために －

【 中学校・高等学校編 】

発行 平成18年3月
栃木県総合教育センター 研究調査部
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070
TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303